

令和 5 年 8 月 10 日

学識経験者 廣島 義和

はじめに

「阿波市第 2 次教育振興計画（前期計画）」は、阿波市第 1 次教育振興計画（後期計画）の成果並びに検証に基づき令和 3 年度よりスタートした。

第 1 次教育振興計画の学校教育では、「生きる上での基本となる食育」「幼児期からの英語活動」「体験活動を積極的に取り入れた教育活動」「ICT を活用した学習活動」等、社会教育では、個人の自立や一人一人が社会参加できる学習環境づくり、市民のニーズに対応した公民館事業や生涯学習事業の開催、社会団体の育成に取り組み、一定の成果を収めている。

一方で、「教育の成果を次の学年や校種につなげる取組の推進」「子どもたちの主体的な学習活動の促進」「学習成果の社会での活用」などの課題が明らかになっている。さらに、少子高齢化やグローバル化、絶え間ない技術革新等社会情勢が急速に変化する中、個人の価値観やライフスタイル、働き方の多様化が進み、さらに、新型コロナウイルス感染症対策である「新しい生活様式」を取り入れながらの活動が日常化するも次第と本来の生活が戻りつつある。このように、変化が激しく、将来の変化を予測することが困難である中、子どもたちが未来の阿波市の担い手となるためには「自らの人生を切り拓き、社会を生き抜いていく力を培う」ことが必要であり、学校、家庭、地域がそれぞれの責任や役割を明確にしながら連携し、ともに未来を担う人材を育成するさらなる教育施策が必要である。

令和 4 年度教育委員会会議開催状況や教育委員会の所掌に係る事務事業についての点検、並びに「阿波市第 2 次教育振興計画（前期計画）」で策定した「5 年間の主要事業」全 74 事業の評価について、所見を述べたい。

1 点検・評価について

報告書は、推進施策 25（実施事業 74）に対する事業評価「以下事業評価」と第 2 次教育振興前期計画における重要施策の業績評価指標一覧「以下評価指標一覧」から成る。推進施策毎に PDCA に基づく評価がなされている。また、そのうち前期計画の重要施策事業 19 について KPI（重要業績評価指数）並びに目標値が設定されており、該当年度の実績値が記載されている。KPI が設定されていない 55 事業についても可能な限り目標値の設定が望ましい。

事業評価 74 事業のうち A 評価 22 事業（約 30%）、B 評価 52 事業（約 70%）である。また事業の方向性は、A「さらに重点化」(1)「現状のまま継続」(21)、B「さらに重点化」(0)「現状のまま継続」(48)「見直しのうえ継続」(4) である。

以上、A 評価 22 事業については、学校教育課の「教育内容の充実」(8)「家庭や地域との連携・協働」(1)「特別支援教育、帰国・外国人児童生徒の支援の充実」(1)「安全・安心な教育環境づくり」(2)「学校施設設備の整備」(1) 社会教育課「生涯学習推進体制の充実」(1)「生涯学習関連施設の整備充実・機能強化」(2)「生涯学習プログラムの整備・提供」(2)「文化財の保護・活用」(4) であり、学校教育、社会教育ともに成果が上がっている。

また、A 評価のうち、「さらに重点化する」(1) は、学校教育課の【安全・安心な教育環境づくり】における「地域全体の連携強化」となっており、今後の方針記載の地域全体で子どもたちの安全を確保する体制の強化と、自らが危険予測能力や危険回避能力を身につける学習等一層の推進を期待する。

次に、B 評価のうち、「さらに重点化する」は (0) となっている。

次に、B 評価「見直しのうえ継続」(4) は、社会教育課の【スポーツ振興施設の体系化】に

における「市民の健康・体力づくり推進事業」「実施内容の定期的な見直し」、【幅広いスポーツ活動の普及促進】における「行事の見直し・改善」、「ばあわーあっぷ事業」であり、今後の方針に記載のとおり、シティマラソン開催参加者の増加、幅広い世代へのニュースポーツの普及、市民個々のニーズに合ったスポーツ提供など、市民が気軽に楽しめ、体力維持のためのスポーツがより一層充実普及できるよう期待するとともに見直し継続をお願いしたい。

ほとんどが B 評価・「現状のまま継続」である。概ね成果が上がっていると判断できる。

次に、評価指標一覧に関して、KPI・目標値(43)中、但し、アンケート中止や実施該当項目が10存在し、評価対象項目は総数33となる。そのうち9が目標達成されている(約27.3%)。約3分の1が達成されている。これまでコロナ禍のため、事業が中止となり、十分な取組ができていない状況あるが一定の成果が上がっていると考えられる。引き続き、感染症対策を講じた方策等解決すべき課題は山積しているが、実効ある目標達成のため、一層のお取組をお願いしたい。

2 施策の進捗状況について

(1) 学校教育「食育を基盤にした、地・徳・体の調和の取れた生き抜く力の育成」

1-1「生きる力の育成を重視した教育内容の充実(12事業)」では、A評価(8) B評価(4)である。

教育・保育要領に基づく教育の実施は、認定こども園・小学校との連携、人とかかわる力の育成、遊びをとおした思考力の基礎の育成、英語指導講師・英語担当の保育教諭による英語活動など、豊かな感性を育む実践ができています。

確かな学力の育成は、また、すべての小中学校で、ALTによる英語授業の実施、授業外でのALTとの学校生活共有により、外国人とのコミュニケーション能力や異文化理解の向上に取り組んだ。小学校でも、英語講師によるT2指導に取り組み、英語への関心を高めた。今後とも、適切なALT確保に努め、子どもたちとの繋がりがより深まり、継続安定した事業継続を期待する。

豊かな心の育成は、人権擁護委員とともに野菜・花栽培に取り組み、阿波市人権教育研究大会の開催、伝統文化継承として、地元連招聘による阿波踊り、市内の名所旧跡めぐりなど、郷土の文化財学習ができています。義務教育での道徳の教科化に伴う発達段階に応じた指導内容の組織化、計画的実践を期待する。

健やかな体の育成は、毎年実施の体力向上指導員派遣事業や阿波市スポーツ推進員の活用による体力向上を行っている。また、薬物乱用指導教室の開催、学校薬剤師等による指導・啓発を実施し、健康や安全への配慮ができています。また、こども体力アップ事業での肥満児童(小5)の割合が目標値を達成できておらず、令和2年度実績値を超過しており、対応が必要である。

教職員の資質の向上は、ICT支援員等の派遣、阿波市教育情報セキュリティーポリシー研修会などICT活用に関する教職員の資質向上に取り組んでいる。「教える授業」から「学びあう授業」への授業方法の改善や教員のICT活用におけるサポート体制の充実等期待する。

働き方改革の推進は、令和3年度に全小中学校に校務支援システムを導入し、引き続き管理職等による教員の在校時間可視化を実施しているが、教職員の業務適正化を図ることが課題となっており、早急な具体策の検討、執行が望まれる。

環境教育の充実は、「新・学校版環境ISO」を全小・中学校が取得した。学内をはじめ、地域に出向いて環境保全・環境美化・環境学習活動を実施した。ゴミゼロ運動やエネルギー

ーについての学習に取り組み成果が上がっている。

食育の推進は、「Awa 産 Awa 消 My メニューコンクール」開催による給食献立採用、アエルワ食堂での献立メニューとしての提供など、食への興味を喚起した。青果物地産地消費率は 66.6%であり前年度を上回っている。「阿波市学校給食農産物供給協議会担当者会議」での成果が見られる。

ICT 教育の推進は、学力向上推進講師 10 名を小学校に、2 名を学校教育課に配置、英語指導講師 5 名を小学校に配置し、学力向上を図る。タブレット、デジタル教科書、実物投影機等 ICT 機器の活用し、「楽しくわかる授業」に取り組んだ。また、ICT 支援員を各学校に派遣し教職員の ICT 活用能力の向上を図った。今後、電子黒板機能付きプロジェクターなど活用した授業展開の計画・実施に期待する。

読書活動の推進は、朝読、読書ボランティアによる読み聞かせの実施、ブックリストの作成による児童生徒の読書への興味関心を高めた。また、家庭での読書週間の重要性を再確認するための情報発信や啓発に期待する。

就学援助の実施は、手厚い就学援助の実施し、義務教育の円滑な実施に資することができた。今後も引き続き就学困難な児童生徒の保護者に適切な広報を実施し、手厚い支援をお願いしたい。

キャリア教育の推進は、小学校では、目標に向かいチャレンジする精神力と行動力の育成に取り組み、児童を褒め励ます教育活動に取り組んだ。中学校では、職場体験学習を実施や、「キャリア教育を支援するための講演・出前授業」等の活用、各教科の中でキャリアプランニング能力の育成を図っている。

1-2「家庭や地域との連携・協働（2事業）」では、A 評価（1）、B 評価（1）である。

学校・家庭・地域との連携した取組は、中学校美術部のやねこじき参加し地域の文化芸術の発展に寄与している。学校支援ボランティア 49 名をはじめ、ゲストティチャー招聘等、地域の方々との交流し地域の教育力を活かした取組を行った。引き続き地域ぐるみでの教育実践をお願いしたい。

コミュニティー・スクール制度の活用は、「学校運営協議会規則」に基づき、地域に開かれた学校づくりとして、保護者、地域住民等の意向を反映した学校運営が期待される。今後は、子どもの学校生活の様々な課題を保護者や地域住民と共有し、社会全体で学校運営に関われるよう「地域とともにある学校づくり」の根幹としての活用を期待する。

1-3「心と体の健康問題への対応（2事業）」では、すべて B 評価である。

適応指導教室「阿波っ子スクール」の運営は、基礎学力の補充、スクールカウンセラー（月 4 回）、スクールソーシャルワーカー（月 4 回）によるカウンセリングの実施、地域ボランティア・大学院生ボランティア活動、不登校問題対策協議会を開催する等対応がなされている。また、「不登校問題に関する対策協議会」を実施し、各学校の課題等について各関係機関と協力体制で臨んでいる。

1-4「特別支援教育の充実（3事業）」A 評価（1）B 評価（2）である。

障がいのある子どもの教育環境づくりは、すべての認定こども園・小・中で特別支援教育コーディネーター配置、加配教員の配置等支援体制の充実がなされ、個別の教育支援計画の作成による的確な教育的支援ができています。増加傾向にある支援を必要とする児童・生徒の教育的環境を整え、施設整備、人的支援、研修会をとおして支援体制をさらに充実してほしい。

相談支援体制の充実は、入園おうえんシート、入学応援シートなど乳幼児から学校卒業

までの一貫した相談・支援への工夫が見られた。今後とも、乳幼児から学校卒業まで長期的な視点で一貫性のある支援体制の充実を改めて希望する。

海外帰国・外国人児童生徒への支援は、小中学校において「帰国・外国人児童生徒トータルサポート事業」の活用による日本語教育支援を行っている。今後、日本語指導の必要な児童・生徒の増加が見込まれ、支援体制の一層の充実を期待する。

1-5「安全・安心な教育環境づくり（3事業）」A評価（2）、B評価（1）である。

地域全体の連携強化は、通学路点検、学校・警察・地域・青少年育成センター等連携による街頭補導、スクールガードリーダーによる巡回指導が実施されている。今後とも、地域全体で子どもを守る、子どもたちの安全確保体制へのさらなる強化が示されており大いに期待できる。

防災教育の充実は、すべての認定こども園・小・中学校で学校防災計画・学校防災マニュアルによる訓練を密を避けて実施、感染症対策を実施しながら、防災等出前授業を実施している。

安全教育の充実は、警察・県土整備局・市建設課、園・学校、PTAや青少年育成センターによる通学路危険箇所合同点検43箇所実施。今後とも、阿波市通学路交通安全プログラムに基づき、児童生徒の安全教育をさらに推進してほしい。

1-6「小・中・高等学校の連携強化（1事業）」B評価である。

連携強化の取組は、中学校では、オープンスクールによる小中交流、中高一貫教育として、阿波西高校と市場中・阿波中間で教員の相互交流、部活動練習試合等行っている。

1-7「学校施設の整備（3事業）」A評価（1）B評価（2）である。

施設の長寿命化工事は、「吉野中学校屋内運動場大規模改修工事に伴う設計業務」、「市場中学校屋外運動場夜間照明及び防球ネット改修その他工事」「吉野中学校屋外運動場防球ネット改修その他工事」、「吉野中学校屋外運動場夜間照明改修工事（第1・2工区）」に従い進められている。今後も、長期寿命化計画に基づき学校施設の整備を進めてもらいたい。

施設バリアフリー化については、計画通り実施できた。

教育機器の充実については、計画に基づき市内小中学校の特別教室に空調機設置工事を実施した。今後とも、「個別最適化された学びの実現」、「安全安心な教育環境の確保」のための施設整備の実現に期待する。

(2) 生涯学習「生き生きと自己実現を図りながら社会参画する生涯学習の推進」

2-1「生涯学習推進体制の充実（3事業）」A評価（1）B評価（2）である。

講座内容の定期的な見直しは、講座終了時に、受講生対象にアンケート実施し、結果等を勘案して事業評価を加え、次年度計画策定を行っている。

関係機関との協力による事業、講座の実施は、文化協会との協力の下、文化協会会員を講師とする生涯学習講座の実施。

学習成果を発揮できる環境づくりは、ケーブルテレビでの放映を実施している。今後とも、さらに多くの発表、表現の機会を期待したい。

2-2「生涯学習関連施設の整備充実・機能強化（4事業）」A評価（2）B評価（2）

となっている。

図書館機能の充実は、図書選定委員会を月1回開催する等、図書館利用者、蔵書数、貸し出し冊数それぞれ目標値近くの成果を挙げている。

図書館指定管理者制度による効率的な運営は、各図書館の实地調査をし、モニタリング

を実施するなど運営状況の把握に努めており、調査結果に基づきより実効ある運営を期待する。

公民館機能の強化は、市民のニーズに対応した講座などを開催し、盛況である。今後とも、さらに充実した公民館運営をお願いしたい。

図書館・公民館施設の整備は、施設・設備の充実を計画的に進めている。

2-3「生涯学習プログラムの整備・提供（4事業）」A評価（2）B評価（2）である。

生涯学習情報の提供は、広報あわ、市ケーブルTV、HP、児童対象講座は、学校を通じて行っている。生涯学習講座数は、実績数値24（目標値25）でほぼ達成、講座登録者数は実績数値2,228人（目標値2,200人）で達成できており、成果が上がっている。今後とも更に効果的な情報提供を実施し、生涯学習さらなる発展を期待する。

各種講座の開催は、アエルワ、自然観察会、ホテルの観察会、石・野鳥の観察会、藍染体験等多岐にわたる講座が開設されている。今後とも、なお一層の効果的な運営を期待する。

学習成果の発表機会の充実は、子ども茶道教室受講生の阿波市文化祭に参加予定であったが、コロナ禍のため中止、今後とも、ケーブルTV・広報あわ等積極的に活用し、学習成果の発表を工夫し、発表機会の充実をお願いしたい。

市民参画の推進は、受講生アンケートによるニーズ把握を実施している。また、講座満足度も高く、今後とも、市民参加の充実に向けて、なお一層の取組をお願いしたい。

2-4「関係団体の育成（1事業）」B評価である。

関係団体の育成は、総合型地域スポーツクラブ・スポーツ協会を支援し、各種団体の育成を図っている。スポーツ少年団スタートコーチ養成講習会はオンライン開催となっている。今後とも、市民や各団体・サークルが主体性を発揮しやすい環境づくりの支援を期待する。

(3) スポーツ振興「生涯にわたりスポーツに親しむ環境づくり」

3-1「スポーツ振興施策の体系化（3事業）」すべてB評価である。

市民の健康・体力づくり推進事業は、「スポーツのまち阿波市」を目指し、阿波シティマラソン、スポーツ推進委員派遣も順調で幅広い世代へニュースポーツの普及を行うことになっており、期待が持てる。今後の方針は、見直しの上継続の方向である、十分検証願いたい。

実施内容の定期的な見直しは、市民ひとり1スポーツを目指し、スポーツの効用を様々な観点から考えるなど計画的に推進し、今後の方針にあるように、気軽に楽しみ、体力維持のためのスポーツ、アスリートのためのスポーツ等個々のニーズに合ったスポーツの推進を期待する。今後の方針は、見直しの上継続の方向である、十分検証願いたい。

全市的な推進組織の運営、理解促進については、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブの会員を増やすための普及のため、スポーツ推進委員の派遣等実施している。今後とも、さらに広報活動の推進を期待する。

3-2「スポーツ施設の整備充実・有効利用（1事業）」B評価である。

スポーツ施設の整備充実・有効利用は、計画的な施設整備ができており、施設利用者数は目標値を達成している。引き続き、スポーツの活性化のため、市内外交流に取り組んでほしい。

3-3「幅広いスポーツ活動の普及促進（3事業）」すべてB評価である。

スポーツ普及事業は、スポーツ協会において、連盟ごとのリーグ戦、大会を開催し、市

内外交流を図った。広報誌、ケーブル TV 等多様な広報媒体を通じて普及促進に取り組み、保健指導にニュースポーツを取り入れるなど、市民の健康増進を期待する。

競技力向上支援事業は、徳島駅伝の成績向上に向けた強化練習・合宿に取り組み（一部、コロナ禍で中止）、全国大会出場の財政的支援もできている。今後の方針にみられる小学校段階からの選手育成等、さらなる選手の発掘確保・選手層強化等一層の成績アップを期待する。

行事の見直し・改善は、阿波シティマラソン、阿波市ジュニア駅伝（雨天による中止）が計画され、阿波シティマラソンは市外からの参加者数 614 人（目標値 800 人）であり、7割強となっている。ジュニア駅伝は、雨天のため中止となったが、エントリー数、男子の部（16 団体）、女子の部（1 団体）、低学年の部（4 団体）、計測マラソンの部（93 人）であった。今後、雨天時の対応や、関係機関と協議の上、さらなる安心安全な大会運営を期待する。

3-4「スポーツ団体・指導者の育成（1 事業）」B 評価である。

スポーツ団体・指導者の育成は、事業の評価の有効性が「できていない」と昨年度に続き同じとなっている。指導者の育成について、阿波市内 3 スポーツクラブ支援の財源も計上されており、核となる指導者の育成については、スポーツ推進委員の派遣をより充実活用する、また、市担当部署等が指導者養成研修を計画実施するなど、引き続き指導者養成の支援・対策実行をお願いしたい。

(4) 芸術・文化振興「郷土を愛する心と創造力が育つ、市民主体の文化芸術活動の促進」

4-1「芸術・文化団体の育成（2 事業）」ともに B 評価である。

情報の提供については、広報誌、ケーブル TV 等で実施。さらなる情報提供をお願いしたい。

指導者や文化ボランティアの確保は、文化協会加入団体を講師とした運営ができている。また、生涯学習講座修了生の指導者への活用等の仕組みづくりも期待したい。

4-2「芸術・文化の鑑賞、発表機会の充実（2 事業）」すべて B 評価である。

文化行事の拡充は、アエルワにおいて、文化協会との共催で阿波市文化祭を行い、芸能祭、展覧会が実施できている。文化行事のさらなる拡充発展を期待する。

市民参画の推進では、文化協会との共催事業「阿波市文化祭」、生涯学習推進映画会・講演会等にて市民参画ができている。市民の参加企画をなお一層期待する。

4-3「文化財の保存・活用（4 事業）」すべて A 評価である。

文化財保護体制や調査研究体制の整備は、阿波市古墳調査事業として、土成丸山古墳発掘調査、現地説明会、調査報告書刊行を実施した。引き続き文化財保護体制、調査研究体制の整備充実をお願いしたい。

市史跡整備や市指定木造座像の修理を行った。文化財の継承と活用は、文化を次世代に継承する重要な意義があり、地域と連携して、人材育成や文化財の保護・保存について協議し、財政的支援をさらに期待する。

文化財の広報活動の充実は、発掘調査成果の展示や「藍のふるさと阿波 9 市町連携パネル展」を実施した。更なる広報活動に寄与されたい。

文化財ガイドブックの作成は、指定文化財ガイドブック「阿波市の文化財」を刊行（500 部）した。子どもたちや一般市民にとって阿波市の文化財の状況が網羅されたガイドブック「阿波市の文化財」は大いに期待できる。今後とも、当該ガイドブックの有効活用をお願いしたい。また、市指定文化財数実績値は 80（目標値 55）となっており、目標値をク

リアできている。

4-4「歴史館等の整備充実・有効利用（1事業）」B評価である。

施設の整備充実と有効活用は、整備充実は計画に基づき実施し、「昔のくらしの道具」展示解説を小学生対象に行うなど、有効活用に取り組んでいる。また、歴史館入館者数は実績値 600 人（目標値 500 人）となっており目標値達成となっている。

(5) 青少年健全育成「青少年の健全な生活を守り抜く環境づくり」

5-1「青少年の健全育成の推進（4事業）」すべて B 評価である。

環境美化活動は、青少年の健全育成、非行防止等を図るため、市内のすべての小・中学校で地域・学校の実情にあった取組ができている。

講演会の実施は、青少年健全育成講演会を阿波中学校で実施、担当校を設定し実施しているようだが、具体的には、担当校生徒・教職員のみ参加なのか、他校生も参加しているのか等明白でなく、仮に当番校のみ参加、4 中学で輪番制であると、全く講義を聞けない学年のある学校が出てくる。当番校以外の生徒、教職員の参加があれば、この限りではない。すべての中学校でどの学年も 1 回は参加できることが望ましい。

地域ぐるみの健全育成運動の展開では、「少年の日」「家庭の日」の普及のため、防犯弁論大会や親子ふれあい事業等を計画に従い実施している。

5-2「家庭の教育の向上（5事業）」すべて B 評価である。

講演会の実施は、親子で和菓子作り教室等生涯学習講座や夏休み親子ふれあい木工教室等、計画的に取り組んでいる。

正しい生活リズムの定着は、生活習慣についての実態調査を行い基本的な生活習慣の確立指導を行った。また、生活チェックで自己改善や健康教育参観日をとおして、保護者の意識を高めるなど家庭啓発を行っている。また、朝食摂取状況調査（ほぼ毎日食べる）で実績値が 86.2%（目標値 100%）であり、早ね、早起き、朝ご飯の正しい生活リズムの定着推進をお願いしたい。

情報提供の充実は、広報あわ、ケーブルTV、学校でのチラシ配布等を行った。

文化やスポーツの拠点づくりは、生涯学習講座をとおして実施している。

家庭教育の充実は、ブックスタート、図書館おはなし会を実施している。ボランティアの更なる確保をお願いしたい。

5-3「青少年の体験・交流活動の充実（3事業）」すべて B 評価である。

講演会等の実施は、生涯学習講座（親子講座）の実施。

子ども体験学習活動は、親子ふれあい木工教室や夏休み体験学習（県立防災センター見学等）を行っている。また、体験事業実績値は 90 人（目標値 520 人）となっており目標値と大きく隔たりがある、さらに取組を強化してほしい。

青少年の居場所づくりの推進は、勤労青少年ホーム利用等の取組がある。利用者数は延べ 887 人となっている。今後とも、青少年が気軽に集える環境づくり、計画づくりをお願いしたい。

5-4「青少年団体、リーダーの育成（2事業）」ともに B 評価である。

指導者養成講習の開催は、スポーツ少年団スタートコーチ養成講習会はオンラインとなり実施回数数は不明とある。実施回数の実績数値 0（目標値 4）となっている。大切な講習会であり届け出、アンケートによる把握等の工夫をお願いしたい。

子ども会活動の充実は、阿波市内 55 団体に財政支援ができおり、各団体のさらなる活性化をお願いしたい。また、財政支援があるといえども 55 団体への補助金交付が総額

で 392,506 円、単純計算で 1 団体役 7,100 円となり、低額と思われる。詳細状況は不明であり、子ども会活動の低迷もあろうが、各子ども会の活動状況等把握し補助金や子ども会の有様について検討が必要ではないか

(6) 人権教育・国際理解「多様性をはぐくみ、互いに尊重し、つながりを実感できる社会づくり」

6-1「人権啓発事業の実施（2事業）」ともに B 評価である。

指導者の養成では、全国（奈良大会）・四国（資料開催）・県人権教育研究大会（リモート）へ参加する等、資質向上を図っている。さらなる指導者の養成をお願いしたい。今後は、市職員の計画的参加や参加報告による庁内研修などをおして資質向上を期待する。

人権啓発事業の実施では、人権啓発講座、阿波市人権フェスティバル、人権問題講演会、市内企業職員研修会（中止）等を行っている。さらなる取組をお願いしたい。

6-2「ばあわーあっぷ事業（1事業）」B 評価である。

教科を中心に実施、人権フェスティバルへの参加、保護者会等を通じて情報交換をし、保護者、児童生徒との信頼関係構築に取り組んだ。今後とも、さらなる熱意ある取組をお願いしたい。

6-3「国際感覚豊かな人材の育成と国際交流活動（2事業）」ともに B 評価である。

英会話教室の開催は、ALT による講座（初級、中級）を市内 4 箇所で開催している。参加人数実績値 50 人（目標値 70 人）であり、ほぼ達成に近づいている。今後の方針は、見直しの上継続の方向である、より多くの市民が参加できるよう十分検証願いたい。

国際交流の推進は、市民ニーズに応じた外国語講座の実施による国際交流活動の推進を目途としている。韓国語講座が実施されており、今後とも、外国語講座の実施やふれあいにより、市民と外国人の国際交流を一層進めてほしい。

3 おわりに

阿波市第 2 次教育振興計画（前期計画）令和 4 年度実施の全事業に対する評価結果について、可能な限り所見を記述した。日ごろ、多大な時間・労力を費やし熱心に教育行政に取り組まれている教育委員会を始め関係者の皆様に感謝と敬意を表します。

2022（令和 4）年度は、第 2 次教育振興計画の 2 年目である。これまで、全般的に順調な実績を上げていると考えられる。さらに成果を上げ、完成度を高めることが肝要である。まずは、前期計画最終年を目途として、各部署、各担当者が懸案となっている事業のさらなる精査洗い出しを行い、年次進行で計画的に集中して具体的に取り組み、課題をクリアしていただきたい。そして、子どもたちが楽しく、自由に、安全・安心の環境のもと、生活できるよう、「あすに向かって 人の花咲く 安らぎと感動の郷土・阿波市」の実現をお願いしたい。

はじめに

本報告書は、「地方行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、令和4年度に教育委員会が実施した事業についての点検・評価結果を議会に提出するとともに、市民への説明責任を果たし、教育行政のさらなる充実を図るためのものであります。

昨年度もまた新型コロナ禍中での事業実施となり、事業自体が中止や縮小しての実施であり、関係者の方々は大変苦勞されたのではないかと思います。そのような中、この報告書が今後の取り組みにつながることを期待して、一市民としての目線から所見を述べさせていただきます。

1. 点検・評価の方法

阿波市第2次教育振興計画（前期計画 令和3年度～令和7年度）で策定した全74事業を対象として、事業ごとに評価シートを作成し評価しています。評価シートは記載事項が1ページで作成されている形式であり、PDCAのサイクルを生かし事業を実施していることが分かります。各事業評価シートには、事業の評価（4項目、4段階）、総合評価（4段階）、事業の方向性（5段階）のような観点に基づいた評価を行っています。

今回、新型コロナウイルス感染拡大中において人数や実施回数等が指標になっている事業に関しては、評価が悪くなるものも見られました。しかし、質が低下したり、参加者の反応が悪くなったものはないと思われます。今後、様々な状況下におけるPDCAサイクルの指標の在り方について考える必要があると思われます。

2. 主な事業

（1）学校教育

学校教育関係27事業において一定の成果を上げており、優れた取り組みが多数あると思われます。

幼児教育については、阿波市独自の英語指導講師を生かし、幼児期からの英語に対する興味や関心を持たせる教育を行っており、国際化時代に向けた英語活動としての評価ができます。今後も小学校との連携を図りながら、英語教育を推進してほしいと思われます。

生きる力の育成として、学力面では学力向上推進講師や英語指導講師等による学習支援を継続的に行い、学力向上を目指してほしいと思われます。また、ICTを活用した授業時間数が前年度の1.6倍に増加しています。タブレットを活用した授業研究・研修の成果と思われます。道徳が教科化されている今日、道徳の授業時数確保に努めながら人権教育や心の教育の優れた取り組みが行われています。ICTの普及や活用が増加する中で、情報モラルの指導、人権に関する指導の充実を望みます。健やかな体の育成においては、肥満傾向の割合が増加しています。学校の新しい生活様式における体力向上計画を見直し、推進していただきたいと思われます。

食育・地産地消の推進として、青果物の地産地消率は66.6%、米100%と毎年向上しています。これは、月1回の農産物供給協議会を開催して、情報交換を重ねた成果と思われます。今後も積極的に取り組み、子どもが喜ぶ美味しい給食の提供をお願いします。

就学援助については、「子育てするなら阿波市」のキャッチフレーズのもと、就学が困難な児童生徒の保護者に対し、引き続き手厚い支援をお願いします。

家庭や地域との連携・協働は、学校支援ボランティアやゲストティーチャーの活用地域

行事への参加、農業体験等の体験活動を行い、地域の方々と交流しています。今後も地域社会との交流を充実させた取り組みをお願いします。

学校施設の整備について、バリアフリー化や老朽化による改修工事は、令和2年度に策定された阿波市学校施設長寿命化計画に沿って実施されています。保護者や子どもの意見を聞きながら、安全な学校施設で学べる環境の整備を引き続きお願いします。

(2) 生涯学習

生涯学習関連施設の整備充実・機能強化については、地域住民の生涯学習の拠点として、公民館施設の整備が行われています。また、図書館の蔵書冊数が増加しています。市民が生涯を通して読書に親しむことは、阿波市の文化度を向上させることに繋がりますので、PDCA サイクルの評価を活用し、充実した図書館運営をお願いします。

生涯学習プログラムの整備・提供については、講座修了後の受講生を対象としたアンケート調査で、全ての講座が満足度90%以上となっています。その結果から見ても、各世代のニーズに合ったプログラム計画が出来ていると思います。

学習成果を発揮できる環境づくりは、ケーブルテレビ、広報あわの活用、文化協会との連携、イベントや展覧会を行っています。今後も様々な発表の機会をお願いします。

(3) スポーツ振興

新型コロナウイルス感染拡大により、施設の休館や利用の自粛、スポーツプログラム等の制限を受け、子ども達をはじめ市民のスポーツ活動をする機会が大きく減少しています。そこで、市民のスポーツ・運動に対する芽を摘まないために、興味・関心に即対応出来る総合型地域スポーツクラブを推進する必要があると思われれます。そのためにも、施設の整備、備品の充実、指導者の育成・支援等が急務と思われれます。

(4) 芸術・文化振興

芸術・文化行事への参加は、学校や文化協会との共催事業を実施することにより、多くの団体や個人の参加ができています。また芸能祭・展覧会における鑑賞は、阿波市ケーブルテレビを活用して、多くの市民が鑑賞する機会を設けた点は評価できます。今後も芸術・文化活動に対する市民ニーズを把握するとともに、優れた芸術・文化の鑑賞機会の充実をお願いします。

文化財の保存・活用については、約2か月間の丸山古墳発掘調査、調査成果の発表としての現地説明会(110名参加)、調査報告書の刊行(300部)等の素晴らしい成果が出ています。今後の取り組みとして、歴史館の展示品等と文化財がコラボし、魅力のあるイベントの開催や展示品等、事業の企画に努めてほしいと思います。

(5) 青少年健全育成

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年に引き続き警察との合同街頭補導は中止されていますが、防犯教室、不審者対応訓練、講演会等は実施されています。また、家庭の教育力向上の取り組みが数多く計画され実践出来ています。青少年の居場所として、勤労青少年ホーム、運動施設を中心に887名(延)の青少年が集まり交流しています。今後も青少年の居場所として、気軽に交流出来る施設、ニーズに合ったイベントを計画していただきたいと思います。

(6) 人権教育・国際理解

人権啓発講座参加者(159名)、阿波市人権フェスティバル参加者(271名)、人権問題講演会(264名)が計画通り実施出来、前年度より参加者が増加しているのは評価できます。社会環境の変化に伴い多様化する人権問題に対して、正確な知識を持って正しく理解し、多様性を認め合うことができる市民の育成をお願いします。

阿波市独自の英語指導講師、ALT を有効に活用し、認定こども園・小・中学校の外国語教育を推進させ、英語によるコミュニケーション能力の向上がうかがえます。また、国際化に対応するためには、我が国と郷土阿波市の伝統や文化の理解を基盤として、異文化理解を推進することが重要と思います。

おわりに

ここ数年来の新型コロナウイルス感染拡大中における各事業の実施となり、事業が中止や縮小しての展開もあり、関係者の方々は感染防止対策等に大変苦勞されたと思われまゝす。しかし、子どもや市民が学びを止めることなく教育活動を継続することが出来ました。教育委員会をはじめとする教育関係者の、教育に対する熱い思いを感じました。

今後のアフターコロナを見据え、今までの PDCA サイクルを生かした事業計画を立案され、今日までの阿波市教育の素晴らしいものを継承していくことに期待しております。

また、日々阿波市教育（学び合う 深め合う 高め合う）推進に向け、教育行政に取り組みられています教育委員会をはじめ関係者の皆様に敬意を表します。